

た道路脇を眺めると、草の上をチラチラと飛ぶ1頭の青いシジミチョウが目についた。多分ルリシジミの♀だろうと初めは見逃すつもりでいたがなぜか気になり、持っていたネットを伸ばして一振りしたところ難なく入った。ネットの中で翅を閉じて止っているのを見て一瞬ギクッとした。今まで県内から一度も採れたことのない蝶が入っていたのである。裏面の斑紋や大きさから、石川県の白山周辺にも分布するアサマシジミのことがまっ先に頭をかすめた。逃げられたら大変と慎重にネットから取り出し、フッと息を吹きかけて翅を広げて表面をみるとアサマシジミでなく、左前翅が少し破損しているものの新鮮で大きなヒメシジミの♂であった。

前後翅表面外縁の黒色の縁どりが幅広い、いわゆるクロヘリ型の♂でデータは次の通りである。

Plebejus argus micrargus (Butler) ヒメシジミ

大野郡和泉村朝日前坂 1♂, June 16, 1982.

前翅長18mm, 下野谷豊一 採集, 所蔵. (Fig. 1 表面, Fig. 2 裏面)

もし土着のものであればもっと沢山見つかるだろうと、夕刻まで付近一帯を探したが最初の1頭以外は採れなかった。後日、さらに何人もの友人が石徹白川流域をあちこち探し廻ったが、この年2頭目は遂に見つからなかった。

ヒメシジミの幼虫は和泉村にも普通にみられるヨモギ、イタドリなどを食べて育つことができるので、仮に石徹白川流域のどこかに生息地があるとすると、その生息地より越冬卵か幼虫が何かの要因で運ばれ、それが運よく食草に辿りつき成長した偶産のものであろう考えられる。

また、今回の朝日前坂に最も近いヒメシジミの生息地が、石徹白川上流の山を一つ越した岐阜県高鷲村蛭ヶ野にある。ここに生息するものは朝日前坂で見つかったものと同様の外観と大きさで、地理的にみてもこの蛭ヶ野との間のどこかに、今回の♂を供給した生息地があるのではなかろうか。何れにしてもこの地域での生息地の確認が期待される。

—短報—

エグリヒメカゲロウの採集記録

下野谷 豊 一*

比較的まれな種とされるエグリヒメカゲロウを採集したので参考までに記録する。

Drepanopteryx palaenoides (Linne)

エグリヒメカゲロウ

大野市仏原ダム 1♂, Oct. 13, 1982.

ダムの水銀灯に集る蛾を調べに度々奥越各地のダムへ出かけるが、採集できたのはこの1頭だけで、福井県においてもかなり少ない種なのであろう。

* (福井市宝永3丁目31-12)

